

IV-43

仙台城本丸現地形と元建物位置について

東北工業大学 正会員 ○菊 地 清 文
同 同 松 山 正 将
同 同 花 淵 健 一

1. はじめに

仙台藩祖伊達政宗は青葉山の地に自然地形を巧みに利用した山平城といえる仙台城を築いた。本丸の東側は直立した80mの絶壁があり、南側は80m～90mの断崖をなす龍の口峡谷があつて「人馬叶わざる」ところの峻崖であり、比較的傾斜の緩い北側と峰続きの西側に人工の防御施設を配置したまさに「天然の要害」である。

このように仙台城立地が優れ、史跡としても価値の高い城址であるにも関わらず、諸般の事情により未だに史跡指定を受けるに至っていないのが現状であり、周辺地形の荒廃や改変が進み、憂慮される状態にある。

著者等は、仙台城とその自然環境を貴重な文化遺産として保護、保存し、後世に伝えていくべきと考え、現況把握としての地形測量を基本に環境情報を加えた主題編集地図「環境地図」の作製に着手している。¹⁾ 本報告はこれ等の調査に基づいて仙台城本丸現地形と元建物位置に知見を述べるものである。

2. 地形図作製方法

2-1 縮尺及び図郭の変更

現在の国土基本図は、縮尺1/2500で表され都市計画等に利用されている。そこで国土基本図との整合性と、詳細な微地形把握とを考慮して、昨年度までの縮尺1/300を縮尺1/250に変更した。原点はこれまでと同様、四等三角点（本丸政宗騎馬像前）とし、座標を平面直角座標系Xを基準にした座標（X=-194187.110m、Y=2360.220m、H=115.290m）として、改めた。

2-2 地形測量方法

測量対象地域は図-1に示す。天守台東側急崖地域は'91年度の未測量部分、五島墓及び蠣崎稻荷大明神付近で、北側は杉林、南側は土砂防止柵があり、既設の測点から見通しが利かないため、2コースを新設して、光波測距儀を用いて結合トラス測量を実施した。測点の地盤高は地形の起伏が大きいため、水準測量は行わず、光波測量の結果から求めた。

急崖部の地形測量は、既設と新設の測点から、光波測距儀で放射法で測量した。また、'91年度測量の急崖部についてはXYプロットで1/250に再プロットし、1/300の図面を参考に書き直しをした。

細部測量については、本丸（AOコース）、テニスコート・バレーコート（Bコース）を1/250の縮尺で光波アリダード等で測量した。また、必要な地点の地盤高は、自動レベルで測量をして求めた。

3. 元建物位置の平面図の作成

元建物位置の参考とした平面図は図-2に示すが、仙台城館および周辺建築復元考²⁾によると『まず復元の対象を何時に置くかが問題になる。これは絵図等資料の残存状況とも深く関連するが、城郭・殿舎、その他の施設が最も整備された時代が望ましいと考え、仙台城の最盛期であった綱村公の時代、元禄10年（1697年）前後の時期に作製されたと考えられる「肯山公造制城郭木写之略図」を参考とした。』と述べている。平面図の縮尺は、1/400でこれらの関連図面を参考に元建物位置の平面図を縮尺1/250に拡大して、元建物の外郭の柱の位置をプロットし、作製した地形図に重ねた。

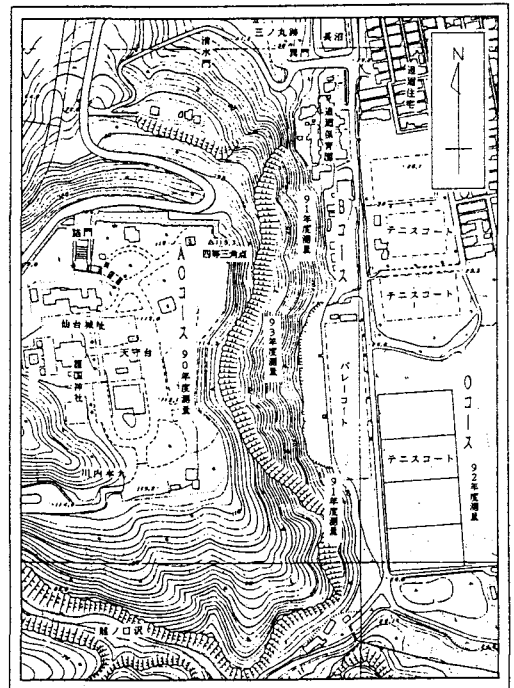


図-1 測量対象地域

4. 結果・考察

4-1 環境地図について

地図作製に当たっては、記録可能な環境情報を積極的に取り入れた。図-3に示す。

急崖地区の地形については、崖の半分以上が岩肌が露出しており、浸食を防ぐ役割を持つ樹木はほとんどなく、崩壊への道を歩んでいる。今後、急崖浸食防止の対策を構じなければならない。

4-2 元建物位置と現地形との比較

仙台城本丸は仙台市と宮城県護国神社の土地に分かれており、大広間の一部、大台所、長局、御守殿の一部の建物部、詰の門、西の門、埋門や西脇櫓跡は護国神社の私有地となっている。

元建物位置を作製した地図に重ねてみると、懸造り、本丸奥御守殿の一部、翼櫓等があったと思われる位置は崩壊してしまっている。特に懸造りがあった位置は当時よりも17mほど後退してしまっただと思われる。また、本丸東側は堀が張り巡らされていたが急崖線が西の方に浸食されて来ておりその跡地は大部分が崩壊している。

詰の門及び東西脇櫓、能舞台、大広間、御守殿等の大部分の建物の位置については影響がない。また、本丸の南側の土塁は今でも当時の形を保っている。

仙台城址は人々から「青葉城」の名で親しまれ杜の都のシンボルとして価値の高い城址であるが、今後も周辺地形の荒廃が更に進むのと思われ、特に東側の急崖の浸食はどんどん加速され、貴重な文化遺産の損失が危惧される。国の史跡指定も含めて十分検討しなければならない問題である。

5. おわりに

元建物位置の平面図は直接作製担当の本学工業意匠学科西野研究室から提供戴いた。

また、これらの測定調査には、本環境測量研究室1993年度研修生の協力を得て行われた。ここに記してお礼を申し上げます。

6. 参考文献

- 1) 菊地・松山・花淵「仙台城址天守台の環境地図づくりについて」平成4年度土木学会東北支部発表会
- 2) 佐藤 巧「仙台城館および周辺建築復元考」、仙台市博物館調査研究報告第6号、1985年

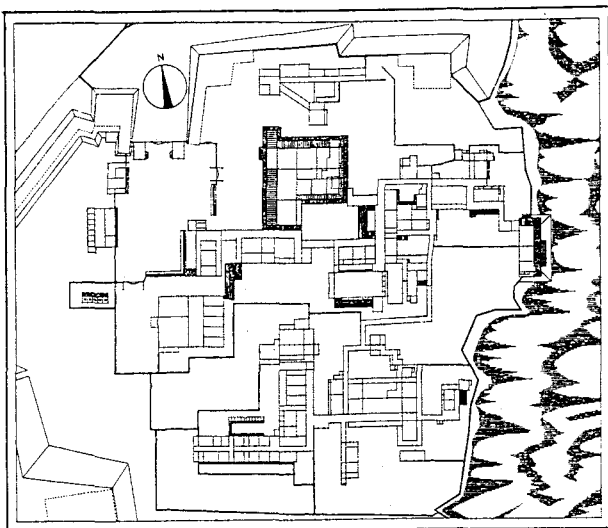


図-2 青山公造制城廓木写之略図（仙台城本丸）

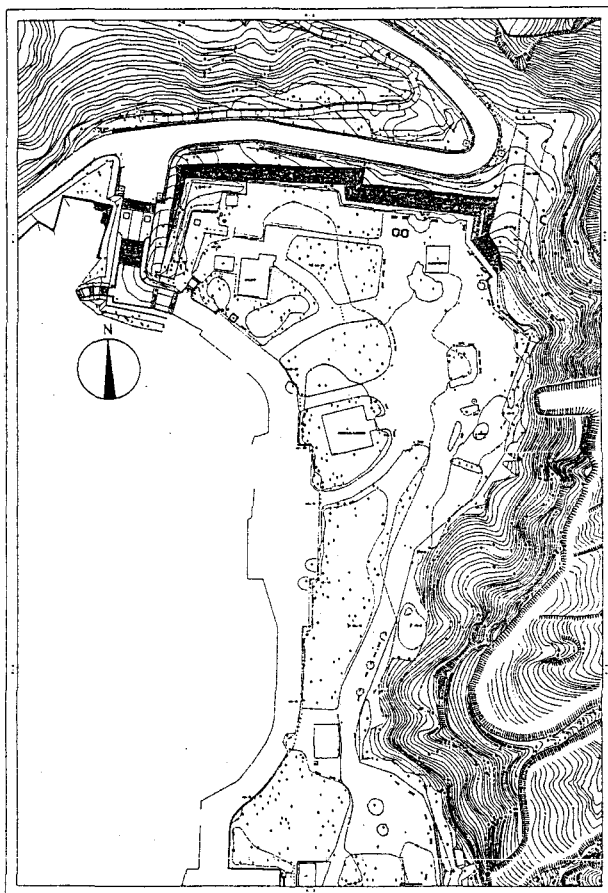


図-3 縮尺1/250環境地図